Y's Men's World

2015-2016年度　第3号　　ワイズメンズクラブ国際協会公式誌

敬愛する読者の皆様へ

コシー・マシュー

本号のワイズメンズワールド（YMW）紙への寄稿を呼びかけたところ、あまりにも多くの反響があって、一時的に寄せられた原稿が多過ぎるという問題が生じたので、最終的なページの割り振りが大変でした。本号に寄稿してくださった皆様に心からお礼を申し上げると共に、引き続き今後発行されるYMW紙への寄稿を奨励したいと思います。

ワイズ運動の執行役員とエリアのリーダーが出席した年中会議が当地バンガロールで2月に開催され、「原則として」YMW紙のページ数を増やすという合意がなされました。6月か7月に発行が予定されている次号からは、本号のように16ページ構成になり、本格的な冊子となります。これは実験的な試みであり、良い結果が出るか否かは、皆さんからの反響にかかっています。

個人的には、年央会議のプログラムに参加し、全てのエリアの指導者の方々と知り合いになれたことは、とても有意義な経験でした。彼らが今まで発行されたYMW紙について感謝と激励の言葉を述べてくれたことで、私は目標を高く掲げ、より良いYMW紙を作る為に努力する意欲を掻き立てられました。

YMW紙が取り扱う範囲は、奉仕団体として我々が行う活動を伝える単なるニュースの枠を超えています。例えば本号は、作家であるマックス・エディガーが思いを綴った記事を特集しています。彼は、複数のNGOとの協働をしながら数例を挙げるだけでも難民や、貧民街の人々、戦争被災者たちと緊密に関わりました。私は、マックスが「魂の真言」の題目で彼のコラムの掲載を承諾してくれたことに感謝したいと思います。もう1つの特集は、社会の様々な課題に取り組むためのアイデアを模索している人達が、手軽に入手できる本に関する短い書評です。日本の杉山龍丸ワイズに敬意を表すことが、世界平和と世界中の人々を思いやる心を希求することに通じるのです。

皆様からニュースと記事のお便りがあることを期待しております。またYMW紙をより良くするためのどんな提案も歓迎します。

ワイズの心を込めて

私の本棚から

『道は開ける』:人生を変え、好機を生み出す

ニコラス・D.クリストフ、シェリル・ウードゥン共著　2014年

デックル・エッジ出版社

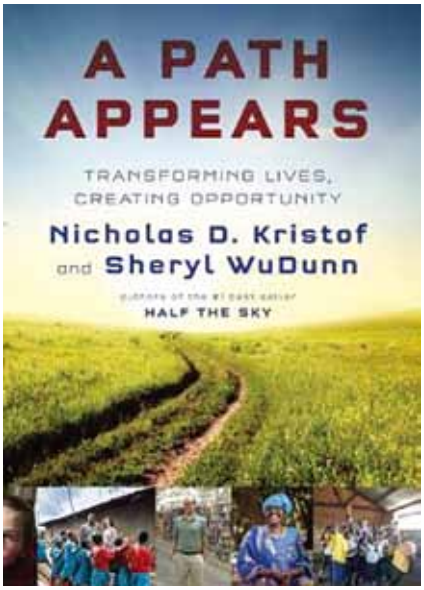
違いを生み出す本質的かつ衝撃的な話 ―望みうる最高の地球市民となるための道筋

『道は開ける』は、極めて野心的な書物です。世界をより良い場所にするために努力している人達を網羅する本であり、同じようにする為にはどうすべきかを示す手引書です。それは、5ドルもしくは500万ドル寄付するか、自分の時間を割き、個人の技術を活かすか、または自分の事業の財源を活かすことによって実現できます。

綿密な調査と現場からの報告を基に共著者は、与えるという技と科学的手法を分析し、成果を挙げた地域やグローバルな取り組みを特定し、社会的進歩の最前線からの驚くべき話を語ってくれます。私達は、1人の人間が変化など起こせないという考えを覆して、生身の人間がどのように世界を変えたかという説得力に溢れた、人を奮い立たせる事実を目の当たりにすることになるのです。

『道は開ける』は、どのようにして1人1人が地域社会に恩返しできるかについて、実践的かつ成果に基づいた助言をあたえ、その見返りとして我々が得ることのできる永続的な恩恵を明らかにしてくれます。クリストフとウードゥンは、今日の世界中の地域社会がどれほど多くの緊急の課題に直面しているかを誰よりも認識しているのです。本著の中で彼らは、我々運命共同体の未来の為に時宜を得た希望の光の道しるべを与えてくれます。

「良書」書評



親愛なる会員の皆様へ

2015/16国際会長
ウィッチャン・ブーンマパジョン

今年2月インド・バンガロールにおいて極めて生産的な国際執行役員会議と年央会議を持つことができました。バンガロールは、緑豊かな都市で、かつてはインドの田園都市として名を馳せていました。9エリアすべての会長と国際執行役員全員が出席して、2016−2017年度予算とそれぞれのエリアの事業計画・献金目標に焦点を置いて協議がなされました。

協議された最大の関心事項の一つは、世界の多くの地域を蝕んでいる不況の影響に伴う会員数の減少であり、「2022年に向けて」定めた達成目標とワイズ運動の100周年記念祝典に照らして協議がなされました。それまでに残された時間が僅か7年であることを考えると、数値目標を達成することが不可能であることが明らかとなりました。出席者全員から表明された賢明な助言は、「大きな数値目標を達成しようと気を揉むのではなく、会員の質の向上と活動参加を促進することに意義を見出す限りにおいて、信念あるミッションという主題の下に2022年に向けて引き続き努力することが最終的に会員増強につながるというものでした。

ヴィジョン2022を達成する為の我々の目標は:

- ·100カ国で会員数を少なくとも5万人に増強する。
- ·我々の組織とその使命に即してワイズメンをグローバルなレベルで強化する。
- ·YMCAと地域社会に的を射た奉仕活動を提供する。
- ·地域社会におけるワイズメンのイメージとアイデンティティーを向上させ、浸透させる。
- ·我々の組織とその国際事業全般について会員の認識を高める。

全ての報告書と詳細に関しては、国際本部から区理事と国際議員を通じて、皆様のお手元に届きますので、ここで年央会議の詳細について述べることはしません。

世界マラリア・デーは4月25日です。我々の世界的組織は、世界保健機関(WHO)が主導するロールバック・マラリア運動の一翼を担っています。この運動が1998年に始まって以来WHOは、マラリアとの地球規模の戦いにおいて主導的な役割を果たしてきました。2015年世界マラリア報告書によると2000年にマラリアが発生していた106カ国の半数以上で2015年までに新たな感染を少なくとも75%減少させることができました。

我々の組織(YMI)は、引き続きマラリア撲滅連携運動においてその一翼を担うことを優先します。このことは、2月の年央会議で再確認されました。今後数十年の内にマラリアのない世界(WFM)を実現する我々の取り組みを実のあるものにする為に資源・人材活用においてより積極的に取り組むことが必要となるでしょう。

同胞の皆様におかれましては、YMW紙のこの号を読まれる頃までには、すでに本年度の活動を終えて、2016−2017年度に向けて役員引継ぎの準備でお忙しい事と存じます。役職を離れるリーダーの皆様に**信念あるミッション**という主題を掲げたこの1年間の素晴らしいお働きに対して心より感謝申し上げます。振り返ってみますと、この1年間がとても記憶に残る1年であったことが分かります。各地で起こったテロ事件、異常気象、社会的動乱、政治的混乱、経済不況、大災害、失望、難民の苦悩などが世界を震撼させました。しかし、我々を招き寄せる復活のメッセージを待ち望む、この四旬節にあたって、有名な賛美歌「あなたの恵みを数えよう」の1節を思い起こしてみましょう。

人生の荒波の中で、あなたが嵐に翻弄された時
失った物の事ばかり考えて、あなたが失望した時
あなたに与えられた恵みを1つずつ数えてみましょう
そうすれば主が今までなさった事に驚くことでしょう

皆様の上に神様の祝福がありますように

1人の子どもがマラリアで亡くなっています
1分ごとに
しかし、あなたは、その状況を変えることができるのです。
わずか1張10ドルの蚊帳が1人の子どもを守ることができます。
今すぐに寄付を。
ノーモアマラリア
(写真)
ロールバック・マラリア
我々のヴィジョン
マラリアで苦しむことのない世界

Portalbuzz
「Portalbuzz」の意味は?

Portalbuzz とは、もともとキワニス国際協会の為に開発されたシステムですが、何年もの年月をかけて改善され、現在はその他の国際奉仕団体によって使用されています。YMI は、現在の会員データベースと置き換える為に、このシステムを採用しました。この新しいオンライン・システムは、管理事務作業の多くをはるかに正確、かつ効率的に処理できます。しかし Portalbuzz は、単なるデータベースではありません。クラブだけでなく区、エリア、国際レベルで多くの貴重なツールの役割を果たします。それを使って 2022 年とそれ以降に向かって活動する YMI の現状を見る事ができます。

クラブ書記と会計は、クラブの管理事務作業を簡素化し、合理化してくれるので Portalbuzz を気に入ってくれることでしょう。

・出席記録に加えて会員名簿と委員会報告を管理する。
・請求書作成とＥメールや郵便物の請求書を管理する。
・電子版ニュースレターの PDF 化と連絡事項の掲示

手軽な月間使用料でクラブは、以下のことが可能になります。

・プロ級のウエブサイトの作成。
・会議や行事の管理。
・オンラインでのボランティアと印刷可能な登録の管理。
・行事資料、会議議事録、会議協議事項の保管。

クラブの会員は、以下のことが可能になります。

・ボランティア活動への登録とボランティアの必要性の閲覧
・会員個人の請求書の閲覧
・ポータルサイトを介して他のメンバーと連絡を取り合う。

以前もそうであったように、会員のプライバシーは、YMI にとって最重要事項であり、会員のデータを守る為にあらゆる適切な予防策が取られなければなりません。詳細について当面は、所属する区事務所もしくは区役員にお問い合わせ下さい。Portalbuzz をお楽しみ下さい。

現在のところ区レベルでは Portalbuzz システムについて、かなり馴染みがあると思われます。国際本部が国際議会から委任を受けた後、オンラインでクラブ会員の登録をする為にこのシステムが導入されました。カナダ / カリブ海エリア、南太平洋エリア、アメリカ合衆国エリアで行った試験的段階を経て、昨年末にこのシステムがそれら以外のほとんどの区に拡張されました。2016 年 2 月 1 日現在の会員数報告期間は、各区にとって通常の会員数報告要請に加えて、会員データの収集を同時に行う好機となりましたが、作業は順調に進みました。新システム導入を熱心にご支援頂いた区に対して感謝申し上げます。

現在 21 区（全区の 45%）がこのシステムを使用できるようになり、その結果会員が自分自身の連絡情報を管理し、クラブは会員名簿とクラブ役員の変更を迅速かつ容易に行うことが出来るようになりました。このシステムを導入された区は、もはや国際本部に年 2 回手作業で会員数を報告する必要がなくなります。更に必要に応じてリアルタイムで会員数を知ることが出来るというメリットもあります。クラブは、クラブ会員名簿を瞬時に作成できますし、必要に応じて顔写真、Ｅメールアドレス、電話番号など情報量の多少を問わず追加することが出来ます。

新任次期国際議員紹介（名前は原文のまま転記）

今年の国際選挙投票の締め切り日は、2016 年 1 月 29 日でした。締切日以降に投票したクラブは、選挙に参加したクラブと見なされましたが、正式な投票数にはカウントされませんでした。2 月 16 日までに 800 クラブが投票用紙を送ってきました。2015 年 8 月 1 日現在のクラブ数（1,494）に基づくと、選挙参加率は 53.5% でしたが、受理された投票用紙の内 37 票は締切日に間に合わず、様々な理由で国際執行役員が 86 票を無効票とせざるをえませんでした。結果として有効投票数は、677 票となりました。ノルウェー出身の Henry J. Grindheim 氏（右の顔写真）が 2016/2017 年度の国際会長に選出され、2016 年 7 月からその職に就きます。

2016 年 7 月 1 日から就任する国際議員は（左から順に）ヨーロッパエリア代表（次期ヨーロッパエリア会長）Svein Havag 氏（ノルウェー区）、韓国エリア代表（次期韓国エリア会長）Koh Young-doo 氏（韓国済州島区）、インドエリア代表 Janardhanan Pillai Sivanandan Nair 氏（南西インド区）、インドエリア代表 B.V. Narayana Rao 氏（中央インド区）です。2016 年 7 月 1 日から就任する次期国際議員兼次期エリア会長は、カナダ / カリブ海エリア代表 Reginald Springer（カナダ・マリタイムズ区）、アメリカエリア代表 Tibor Foki 氏（アメリカ・太平洋南西区）です。

国境を越えた奉仕―
カンボジアの韓国ワイズメン医師団

国際地域奉仕事業主任　Peter (Hangyu), Kim

韓国エリアは、2016 年度上期に地域奉仕事業の一環として、ほぼ 1 週間に渡って医療専門チームをカンボジアに派遣しました。5 名の医師、2 名の看護師、2 名の薬剤師、1 名の着付け係とそれを支援する監督官、通訳者、その他の補助員からなる総勢 18 名のチームを率いたのが Sun Kwang Moon 韓国エリア会長でした。

1 週間の医療キャンプは、首都プノンペンから車で約 3 時間の所に位置するアオラル地区の人里離なれた山間部に設けられました。地元のコーディネーターがこの地域を選んだ理由は、この場所が人里から遠く離れていることと、以前訪れた際に深刻な医療上の問題を抱えていたからでした。この地域の大部分の人たちは、病院を見たことも、健康診断をうけたこともありませんでした。従っておよそ 1,500 人の成人と 800 人の子ども達を診療することは、韓国医療チームにとって大きな挑戦でした。彼らは、見苦しくない程度に散髪をしてもらった後で公衆衛生と初期衛生・医療について指導を受けました。

登録の為に列に並ぶ人々

医療チームは、この診療を受けた多くの人達が、初期癌や様々な腫瘍を含む深刻な健康上の問題に直面していることを知りました。そのような症例は、治療に精密検査が必要であることを告知する一方で、キャンプでは幾つかの大きな外科手術が行われました。最新技術を備えた手術室や面倒な補助を必要としなかった手術例としては、組織生検、膿瘍切除、いぼ切除、切り傷治療、ほくろ、生検と切除、足の巻き爪、皮膚や組織からの異物の除去、脂肪腫切除、癌様良性皮膚腫瘍切除、腹腔鏡手術、胸部生検などが実施されました。

仮設診療室

医療チームも韓国のワイズメンも全ての社会において人々の苦しみを軽減する為に専門家にできることはもっとあると感じています。今回の試みは、我々の組織が定期的に実施可能なプロジェクトや事業の先駆けとして実施されました。韓国エリアは、そのような活動を TOF 事業の一つとして見なすことができると考えています。

治療前の診断

釜山 YMCA と大田 YMCA 以外にも数人のワイズメンが数百セットの下履き、ノート、鉛筆、消しゴムや文房具を寄付してくれたので、医療チームが現地に持参して子ども達に配布しました。

カンボジアの地元受け入れ側のメンバーと韓国医師団・支援スタッフ

インドの洪水被災者を慰める

B. Pavithran, YMW インドエリア編集補佐

2015 年 12 月、度重なる長雨によってチェンナイ市の大半とインド南部タミルナドゥ州、ポンディシェリ連邦直轄領の多くの地域それに隣接する南インドアーンドラ・プラデーシュ州の 1 部が洪水に見舞われました。洪水は、12 月中旬までに 3 州合計で 500 人以上の命が奪われ、数十万人が家を失うという傷跡を残しました。資産への損害は、約 1,000 億インドルピー（150 億米ドル）と見積もられています。これら 3 州で活発な活動をしているワイズメンズクラブは、被災者を救済し、復興計画を作成する為に「ミッション慰め」を実行に移しました。チェンナイのイースト・ワイズメンズクラブが現在も行われている「移動食料配給車」プログラムを最初に実施し、市内外の他のクラブもそれに続きました。元インドエリア会長 Thomas V. John 氏、Thiruverkadu Town クラブ会長 Ranjan 氏、イースト・ワイズメンズクラブ Mohan Daniel 氏、ポンディシェリ部部長 Monoharan 氏が最前線で指揮をとり、その他のワイズメンズクラブと社会奉仕団体からの支援を取りつけました。

数日のうちにケララ州、カルナータカ州、アーンドラ・プラデーシュ州のワイズメンズクラブや支援者から寄付された飲料水のボトル、パン、ビスケットなどの食品、薬などを満載した数台のトラックがチェンナイに到着しました。

同時にワイズメンは、被災者に手を差し伸べ、最も深刻な被害を受けた幾つかの地域の人々に救援物資を届けるために医者と復興専門家のチームを派遣しました。

ポンディシェリのワイズチームと支援を受けた人々

ワイズメンのチームは、2 月末まで被災地の現状評価、救済キャンプの監督、料理の必需品の配給を含めて救済復興活動を管理してきました。チームは救済活動を効果的に実行する為に地元 NGO 団体と提携して取り組みました。現在までに、救済復興事業は、75,000 人以上の人達に恩恵をもたらしました。

ワイズメンもチェンナイの幾つかの場所で医療キャンプを設営し、そこで何百人もの人が治療を受けました。これらの救済活動を通じて、これまでに 10,000 人以上の人達がその恩恵を受けました。

チェンナイ洪水救済活動を主導したイースト・ワイズメンズクラブとその他のボランティアの人たち

医療キャンプに加えて、イースト・ワイズメンズクラブ（チェンナイ）の会員は、チェンナイ市郊外にある村に住む家族におおよそ 30 品目入っている 12,000 組の「救済袋」を配給しました。その中には、男性用・女性用・子供用の衣服、毛布、食料、料理用コンロ、蚊よけ防虫剤を含む必要不可欠な医薬品などが入っています。救済袋 1 つにつきクラブには 2,000 ルピーの費用がかかりますが、それらは全て支援者から提供されました。

遠方・近隣から大量の支援が届く

この苦境の中でさまざまのクラブや区が実施した支援活動に関する報告書が今もインドエリア事務局に寄せられています。最新の集計では、おおよそ 200 クラブが物資と 700 万インドルピー（約 10 万米ドル）を超える義捐金を寄付しました。

インドエリアと区が、それぞれ 5 万インドルピーを寄付した一方で、ワイズメンズクラブ国際協会も 20 万インドルピーを寄付しました。

第二次復興事業は、2016 年 1 月 1 日に始まりました。復興期間中には、災害管理セミナーと今回の災害によるトラウマを克服する為のカウンセリングに加えて、困っている人達に医療と法的支援も提供されました。

言うまでもありませんが、この災害の結果、人間性の最も良い部分が実践されることになりました。とりわけ事に当たって行動を起こすことが義務であると考えたワイズメンによって。

インドのワイズメン YMI をホストし、地域社会に奉仕する

国際会長ジョアン・ウイルソン

2 月、インド・バンガロールのワイズメンズクラブは、2 つの主要な YMI の会議をホストしました。その 1 つは、週末に開催された実りの多い次期理事・部長研修会（2 月 12 日～ 14 日）でした。この研修会には、私自身を含め、西村隆夫国際書記長と約 60 名のインドのワイズメンが出席しました。この充実した週末研修会の関係者にお祝いの言葉を申し上げます。

2 月 17 日～ 23 日にかけて YMI は、年央会議に関連する一連の国際会議を開催しました。バンガロールにある様々のワイズメンズクラブが、会議出席者を招いて、いくつかの特別な夕べを催しました。個々の催しでは、地元地域社会で助けを必要としている人達を支援するために、これまで取り組んだ事業や現在取り組んでいる事業に関する報告を受けました。それらの行事に関わってくださった全てのクラブと会員の皆様に心から感謝申し上げます。インドのワイズメンズクラブと会員のおもてなしと気前の良さには、いたく感動しました。

年央会議中の分科クループ討論会

西村隆夫国際書記長と私は、「会議のない」日には、バンガロール周辺で行われた幾つかのプロジェクトを訪れる機会がありました。現在、バンガロール第 1 部は、ホームレスの身障者と彼の家族の為に住宅を建設中です。（12 ページのニュース記事と写真参照）彼は英語が話せませんでしたが、彼がこの贈り物を受け取って感謝していることは一目瞭然でした。

TOF-GPF プロジェクト現場への訪問

タイム・オブ・ファスト・グローバルプロジェクト・ファンドの支援を受けて完了した 2 つのプロジェクトは、HIV/AIDS に感染して苦しんでいる子ども達の治療に関連しています。その現場を別々の日に訪れました。1 つ目のプロジェクトは、Kothannur にある幼子イエス児童養護施設で、幼児から 21 歳までのおおよそ 100 人の女児を収容する施設です。この施設は、ある教団によって運営されていますが、多くの有給職員とボランティアによって運営されています。女児たちは 1 日に 2 度薬の投与を受けており、今では地域の学校に通うことができるだけでなく（飼っている 15 頭の牝牛から 1 日に 2 回取れる牛乳を含めて）健康的な食事をとって、ダンスなどの創造的な活動を楽しんでいます。

TOF-GPF から拠出された寄付金は、全員を収容する大きな多目的施設の建設費用の支払いとジープ購入資金の一部に充当されました。それらに張られている標識には YMI と TOF-GPF への感謝の気持が表現されていました。施設の子ども達は、私達を見てとても興奮していましたが、素敵な歌と多くの笑顔で迎えてくれました。小さなグループや個人単位で多くのダンスや歌を披露してくれました。（写真 7,8,9）

シスターと共に TOF の贈り物を携えて幼子イエス児童養護施設にて

この施設の女の子達は、自分達が幸せで愛情溢れる大家族の一員であると感じていると私は確信しました。バンガロールクラブとその多くの会員は、TOF-GPF プロジェクトが終わった現在も 100 人の子ども達全員の 1 日 3 食の食費を負担すると誓約して、この施設を引き続き支援しています。クラブは、「1 日の食料」数週間分の費用を負担します。

二つ目の TOF-GPF プロジェクトは、クニガルにある聖グレゴリオス・ダヤブハヴァンです。この施設も同様にある教団が運営しており、有給職員とボランティアが働いています。この施設は、幼児から 21 歳までの約 85 人の男児を収容する施設です。子ども達は自家農園で多くの食べ物を栽培しており、飼っている牝牛とヤギから取れるミルクを含めて確実に健康的な食事が取れるようになっています。厳密なスケジュールに従って 1 日 2 回薬が投与されています。我々がこの施設を訪れた時には、ほとんどの男児は学校に登校して不在でしたが、2 人の就学前の男の子が笑顔と花で出迎えてくれました。スライドの上映とたくさんの絵本があったので、施設の主要な行事と収容されている男児の活動を知る一助となりました。TOF-GPF の寄付金で施設の大きな食堂で必要とする全ての家具と器具が購入できました。それ以前は、子ども達は床に座って食事をしていました。

また、施設の必要性を全て満たす為に大きな多目的施設も建設しました。吹き抜け階段の壁に掛けてある子ども達の絵を見たり、最年少の男児が神父様の膝の上に座って、ついには肩の上で寝入ってしまったのを目の当たりにして、私はこの場所が愛と安全に満ち溢れた施設であると確信しました。

聖グレゴリオスは、AIDS に感染した人々の医療サービスを提供する為に 2 つの病院を始めました。幸運にも 2 つの病院を訪れる機会に恵まれましたので、1 つの病院では、患者の皆さんにオレンジを届けましました。地域社会における AIDS という不名誉を軽減する手助けをする為の支援活動の一環として、1 つの病院は、街中にあります。また、聖グレゴリオスは、きれいな水とカウンセリングを地域社会の人々に提供する為の小さな施設も建設中です。

私はこれらの TOF-GPF 活動に関わっているクラブとメンバーの皆様に賞賛の言葉を贈りたいと思います。共に働くことで、はるかに大きなことが達成できることを心に留めておきましょう。

聖グレゴリオス・ダヤブハヴァンで子ども達の出迎えを受ける

パレスチナの若者の潜在能力を育む

ヤラ・ハッサンドワニ、（東エルサレム YMCA ユース・コーディネーター）とバーブロ・ソレン（パレスチナ区事業主任、チームスエーデン）

現在 TOF-GPF（断食の時・グローバルプロジェクト資金）によって支援を受けている活動の１つは、紛争で引き裂かれたパレスチナの若者の潜在能力を育んでいます。パレスチナの若者は、長年に渡る国内紛争によって最も深刻な被害を受けています。「ユースの潜在能力」と呼ばれるこのプロジェクトは、東エルサレムワイズメンズ・ウィメンズクラブとの協働により東エルサレム YMCA によって実施されています。

エルサレムは、1967 年にイスラエルに併合され、ヨルダン川西岸地区、パレスチナの村々、市から切り離されました。それによって東エルサレムに住むパレスチナの人達に多くの災難が降りかかりました。この併合により特に若者の間では、自分達はパレスチナの文化と伝統から切り離されたという気持ちが蔓延しました。

このプロジェクトは、東エルサレムのパレスチナ人の若者のために、彼らの技術を向上させ、課題を克服し、彼らの置かれている社会の現状を改善する手助けする機会を提供することを優先しています。このプロジェクトを通じて、体と心と精神が健康に育つような安全な場所を提供します。

エルサレム出身の 200 人の若者に手を差し伸べることに焦点を当てているこのプロジェクトは、2016 年 1 月に始まり、リーダーシップ養成コース、人格形成、創造的活動、スポーツ、社会活動などを含んでいます。1 月には、エルサレム出身の 25 名から成るグループの為に 2 日間の研修会を行いました。この社会心理研修会は、若者の個人的社会的技術を養成することを目的としていました。

研修会を通じて若者の潜在能力を見出す

パレスチナ出身の若者のためにベイト・サワーにある YMCA の若者と交流する１日開催プログラムもこの短い期間内に実施されました。エルサレム在住の若者は、通常パレスチナ以外の地域に住む同年代の若者と会う機会はありません。従って、このプログラムに参加した若者にとって、この１日のプログラムは、特別な思い出となりました。

この TOF-GPF から資金を得たプロジェクトは、若者の権限強化プログラムを提供します。若者には、より良いリーダーとなり、積極的に他の人たちに影響を与えるためのツール、手段、奨励が与えられることになります。このプロジェクト期間の終わりには、東エルサレム YMCA が１年間を通して若者が他者と出会うだけでなく、定期的に社会的文化的活動ができる場所であることを若者に知ってもらうことを我々は、望んでいます。このプロジェクトがエルサレムの若者達に新たな生きる活力と希望を与えてくれると確信しています。

東エルサレムの YMCA の若者達

2016 年央会議の参加者（名前は原文のまま転記）

全員出席：全ての国際役員と９エリア次期会長が２月バンガロールで開催された年央会議に出席しました。左から右の順に、直前国際会長 Isaac Palathinkal; 次期カナダ / カリブ海エリア会長 Earl Foster; 次期アフリカエリア会長 Roselyne Birungi; 次期ラテンアメリカエリア会長 Rafael Sagre; 次期アジアエリア会長 Tung Ming Hsiao; 国際会長 Wichian Boonmapajorn; 次期ヨーロッパエリア会長 Knud Klausen; 次期国際会長 Joan Wilson; 次期アメリカエリア会長 Charley Redmond; 次期インドエリア会長 Aby Abraham; BF 支出委員会委員長 Tor Backman; 国際会計 Philips Cherian; 国際書記長 西村隆夫；次期韓国エリア会長 Kim Mun-sik; 次期南太平洋エリア会長 Russell Jones

ハイレベルな意思決定の状況に置かれているユース

パリ気候変動交渉への YMCA/YMI の出席

Clifford Collins Omond Okwany,
ケニヤ YMCA・ナイロビワイズメンズクラブ会員

パリにおける気候変動交渉は、フランス国民がパリで大規模なテロ攻撃を受けた直後に始まりました。この蛮行にもかかわらず、世界は一致団結して立ち上がり、テロリズムに対抗する正義、いたわりの気持ちを表明しました。気候変動交渉は、YMCA によって動員された若いリーダー達を世界各地から呼び寄せました。これは 2012 年に Rio + 20 会議において YMCA の RGE（環境地域グループ）が誕生して以来、最大の関わりとなりました。ワイズメンのリーダーを含めて 500 人を超える YMCA のユースが UNFCCC（国連気候変動枠組み条約）の基に開催された COP21（第 21 回国連気候変動枠組み条約締結国会議）に参加したことで、パリ気候変動交渉に、大きな影響を与えました。

市民社会は、気候変動交渉において主要な役割を果たします。事実、パリ気候変動交渉に参加した多くの人は、民間の組織の代表でした。YMCA は、強力で結果を残せる気候変動体制は、強力で活力のある市民社会を必要としていることを認めました。世界 YMCA 同盟は、YMI と共に若者達に一同に集い、自分達の生活に影響を与えている諸問題について議論する場所を提供することで、若者の存在価値を認めています。

パリで将来に向けての交渉

パリに集った 200 カ国は、化石燃料から排出される二酸化炭素の量を削減する行程表を作成する取り決めをしました。これまで各国は毎年努力を重ねてきましたが、失敗続きで、成果をほとんど上げることが出来ませんでした。しかしながら、パリ気候変動交渉は、間違いなく気候に関する正義を示す、あらたな取り組みを提示してくれました。

重要ポイント

パリ協定の重要ポイントは、CBDR（共通であるが差別化された責任）原則に従って実施することを目的とする、NDC(国家主導の貢献度)の導入、地球の温度上昇を2℃以下（目標値 1.5℃）に抑えること、強力かつ野心的な体制、財政状態、透明性と説明責任、修正の実施、個別要因としての損失と被害、処理能力向上などです。パリ協定は、また気象変動交渉の主要な問題として人権を論ずることで、いたわりの気持ちを示しました。先住民族の権利、男女の社会的平等（ジェンダー）の問題、島嶼国の権利などが集中的に論じられました。YMCA の代表団は、気象変動交渉における女性の重要性を重んじるジェンダー・アンバサダー（大使）として IUCN（国際自然保護連合）の支持に加わりました。

世界 YMCA 同盟は、ハイレベルな意思決定に若者が関わる重要性を認識しています。なぜなら彼らは、将来に実際の交渉に携わる人達だからです。若い世代が理論や実践を学べば、物事を様々な視点から考察し、論理的に諸問題について考えることができるからです。これがまさに COP21 で彼らが得た貴重な経験なのです。

パリでの会議に出席しているユース

多くのユースが代表として COP（締結国会議）に参加したにも拘わらず、アフリカから参加したユースは多いとは言えませんでした。世界の他の国々からやって来たユースの数と比較するとアフリカ人のユースは、ごく僅かでした。最大の課題は、参加のための信任状を得ることと資金を調達することでした。

しかしながら、ユースは、より好ましい交渉結果を得るために異なった会議に出席し、各国政府が必要としている重要情報を集める上で重要な人的資源になり成りえるのです。

YMCA は、2016 年 11 月 17 日～ 18 日にモロッコのマラケシュで開催される COP22 気候変動会議に焦点を当てることを決めました。世界中がマラケシュに注目する中で、YMCA は、より多くのユースを会議に参加させる為の行程を作成中です。

インドのワイズメンから学ぶ

2016 年度インドへの BF 代表ニキタ・カルポフ

今年の 1 月、BF 代表としてインド視察旅行を始められたことは、私にとってとても名誉なことでした。私は、ヨーロッパエリア、ロシア区、ウラル・シベリア部、リフェイワイズメンズクラブ 2013 – 2014 年度会長の任期を終えた直後に BF プログラム奨学金に応募しました。私は、ロシアにおけるワイズ運動を率先して拡大し、その他の区、特にインドの区の活動経験から是非学びたいと考えました。

インド南西部沿岸に位置するケララ州の州都である、商業都市コーチンに到着した私は、厳しい気候とスパイスの効いた食事の「攻撃」を受けてショックを受けました。気温は、おおよそ 30℃台半ばであり、辛くてスパイスの効いたカレー漬けになることは全く想定していませんでした。しかしながら、コーチンのワイズメンは、できる限り私が建物の内部で過ごし、私の好みに合った食べ物を提供するように気を配ってくれました。このような状況は、コーチンだけでなくケララ州、カルナーカタ州、タミル・ナドゥ州でもどうようでした。

多忙なスケジュール

ケララ州での最初の滞在地はコーチン(1 月 6 日～ 8 日)でした。荘厳なカトリック教会とギリシャ正教の教会を訪れ、コーチンの堰止湖でハウスボートに乗りました。また、アーナクラム・サウスとカクカナド・タウンのワイズメンが経営する採石場、ゴム農園、織物店などの様々の企業を訪れました。私は、主賓として予定されていた区大会に招かれましたが、ユース、スポーツ、開発、慈善、貧しい人々と孤児のためのプロジェクトや前途有望な若者の為の特別な教育リーダーシッププロジェクトなどの大規模な奉仕事業を目の当たりにして感動しました。

ケララ州に滞在中に私は、折を見てコッタヤム、トリバンドラム、スリッサーに加えて小さな町を訪れました。カサカリというケララ州の素晴らしい伝統的な踊りでもてなしてくれました。顔の表情と見事な脚捌きがあいまって素晴らしい神秘的な芸術作品でした。これは、私にとって忘れがたい経験となりました。伝統的な治療効果のあるマッサージ・アーユルヴェーダを施す病院や古いカトリック教会、聖トマス博物館、象公園なども訪れました。

今回の訪問は、私にとって単なる観光旅行ではありませんでした。見捨てられた人たちや高齢ホームレスを収容する老人ホームのような施設のある、これらの地域で実施されている幾つかのワイズメンズのプロジェクトを訪れました。バンガロールに向けてケララ州を発つ前に地元の私立学校の生徒の為に経営学と財務処理を教えるセミナーにも参加しました。全体として多くの学びと、いくらかの楽しみの詰まった 1 週間でした。

バンガロールとチェンナイへ

かつてインドの田園都市とよばれたバンガロールで過ごした 3 日間は、とても有意義でした。私を受け入れてくれたホスト達は、私をたいそうもてなしてくれて、地元のワイズメンズクラブが実施している幾つかのプロジェクトの現場に連れて行ってくれました。そこでは、貧民街の子ども達のための学校教育を支援する地域奉仕事業が実施されていました。ヨーロッパスタイルの心温まるバーベキューパーティーまで開催して、もてなしてくれました。

私の最後のインド滞在となった 1 月 18 日～ 20 日は、興味深くもあり残念な期間でした。チェンナイ市での出来事ですが、イエス・キリストの 12 使徒の 1 人である聖トマスが埋葬されていると信じられている場所に立てられた美しい大聖堂を見ることができました。現地のワイズメンがメトロポリタン・クラブとティルヴァカドゥ・タウンクラブが実施している 2 つの主要な奉仕プロジェクトを紹介してくれました。そのプロジェクトの1つが少年の寄宿舎を兼ねる児童擁護施設を支援するプロジェクトでした。もう1つが、チェンナイの路上で生活する貧しく、恵まれない、ホームレスの人達を手助けする慈善事業でした。私達は無料で食料と水に加えて医薬品を配給しました。これらのプロジェクトへの参加は、楽しいクラブ例会と討論会で大いに盛り上がりました。

全てのワイズメンが BF 資金に気前よく献金して BF 交付金に応募されることを強くお勧めします。なぜなら、そうすることがワイズ運動の真価を目で見て学ぶ最善の方法の 1 つだからです。

貧しい路上生活者に食料と水を配給するワイズメンと共に写る
チェンナイのニキタ

ハワイの「蚊撃退」キャンペーン支援

ハワイのデング熱と戦う「蚊撃退」キャンペーンは、ヒロワイズメン・ウィメンサービスクラブから少しばかり特別な支援を受けました。毎年行われる第66回クリスマスツリー販売の収益金の1部を使って、他の奉仕団体と提携して、1,500個以上の蚊よけブレスレットをハワイ島のホームレスの人達に提供しました。

配給のために購入したブレスレットの披露

ヒロクラブは、ハワイ島でデング熱の蔓延が最も懸念される人達に蚊よけブレスレットを提供するプロジェクトを始めました。島では170人の住民がデング熱に感染しました。感染者は、ハワイ島のホームレスの人達で、路上で生活しているせいで蚊に刺される可能性が極めて高いのです。部長であるYサービスクラブ・ランス・ニイミ部長は、デング熱が蔓延し始めて以降、蚊よけブレスレットがはるかに広く使用されるようになったと語っています。

ブレスレットの表面には、デートという駆虫剤を含んでいない無毒のレモングラス油の混合液が使用されていると発表されています。

情報提供者:ハワイYサービスクラブ
Russ Lynch FBのページ

デンマークのワイズメン、グリーンランドの子ども達の現状況を変えると誓う

エヴァン・ジョアンセン

毎年YMIのデンマーク区は、デンマークと世界の地域の子ども達や若者を支援する為に複数の募金運動を行っています。2015−2016年度には、クリスチャンセン理事と区内の部長がグリーンランドにあるブラ・コースと協働することを選択しました。この組織は、主にアルコールや薬物依存症の人達の支援や、そのような施設内での子ども達や若者の成長を支援している組織です。目標は、このプロジェクトの為に120万デンマーク・クローネ(約17万5千米ドル)を集めることです。

アルコール・薬物乱用は、長年に渡ってグリーンランドの子どもと若者に深刻な影響を与えてきた問題です。調査によるとグリーンランド全体の子ども達と若者の3分の1が乱用の問題を抱えており、その多く、特に女児が性的虐待を受けているのです。このような状況は、若者に深い精神的ショックを与えるので、全面的な支援が必要です。そのような事業のために使用できる公的基金がないので、ワイズメンとブラ・コースという団体が支援しているのです。

オレ・カークス・ファンド(LEGO)からの支援も受けている、このプロジェクトの理念は、これらの子ども達や若者を収容するための、列になった宿泊施設を建設することです。そこでは、新たな希望を与え、改心して生活を一新できるように、ボランティアがカウンセリングを行います。先ず、プロジェクトが実施される6つの都市が選別されました。それらの都市では、グリーンランドの子ども達と若者のカウンセリングができるように、ニヴィ・ヘルマンがボランティアの指導を行います。

グリーンランドの子ども達のために準備をするデンマークのワイズメン

募金活動に加えて、デンマーク区が、2016年夏にグリーンランドを訪れる手続きをする一方で、デンマークのワイズメンは、住宅を子ども達の為の宿泊施設に改装する手助けをする為に準備を整えています。

地域の為の海岸清掃活動

高雄ワイズメンズクラブ会長　メイ・ヒュイ・チェン

台湾区南部は、昨年末に高雄市役所観光局及び高雄YMCAと協力して「海岸清掃」地域奉仕活動を実施しました。Lin理事とShu部長は、5クラブから83名の会員、メネット、コメット、近隣の学校から約200人の学生を招集して、この意義深い活動に参加しました。海岸の50メールの範囲の店と壁に掲げる為にワイズメンのロゴと環境に関するメッセージが書かれた横断幕や旗が印刷され、配布されました。この記事を書いている3ヶ月経った現時点でもワイズメンズクラブ国際協会の親善のメッセージを観光客やその他の人々に伝える為に横断幕と旗が掲げられています。

熱心に作業した後で海岸に集合したワイズメンの会員とボランティア

バンガロールのムニヤッパのための住居

バンガロール第 1 部長トーマス・ビジュ

ワイズメンズクラブ国際協会のリーダーであるジョアン・ウイルソン次期国際会長と西村隆夫国際書記長が、インドエリア会長が重点的に取り組んでいるパーディダム（避難所・住居）プロジェクトの一環としてバンガロール第 1 部が実施しているプロジェクトの現場を訪れました。バンガロール第 1 部は、25 万ルピー（約 3,750 米ドル）の費用をかけてバンガロールの路上生活者で身障者のムニヤッパさんの住居建設事業に取り組んでいます。バンガロール市の郊外に建設中の住宅は、完成間近で 2016 年 4 月 10 日に開催される式典で本人に寄贈されます。

現場で寄贈を受けるムニヤッパさん、ビジュ部長と共に写る
ジョアン・ウイルソン次期国際会長

無料のポインセチア、寄付を募る

クリスマスの花として知られるポインセチアは、激励の象徴です。毎年クリスマスの季節になるとノース・コースト・ワイサービスクラブ（アメリカエリア・太平洋南西区・サンディエゴ部）は、無料でポインセチアを寄贈することで、多くの施設入所者を元気づけています。この事業の肝は、花を受け取った人達が、現役軍人とその家族に寄付することで、米軍ペンドルトン野営 YMCA プログラムに対する支援を表明することです。昨年、クラブは、数百ドルの募金を集めました。クラブはこれまでに米軍 YMCA が実施しているユースプログラムのために 2016 年 1 月の 8,000 ドルを含めて 28,000 ドルを寄付しました。

最新の寄付金目録を持つ会員

情報提供者：ノース・コースト・ワイサービスクラブの
フェイスブックのページより

メンと共に、メネットはワイズの応援団

西日本区メネット事業主任　遠藤典子

西日本区のメネットは、「メンと共に、メネットはワイズの応援団」というスローガンによって導かれています。2011 年 3 月 11 日は、日本にとって悲劇的な日となりました。壊滅的な地震と大津波によって東日本区にある福島県東部の原子力発電所で炉心溶融が起こりました。5 年前にこの未曾有の災害が襲って以来、日本のワイズメンズクラブは、被災地の特産品を販売することで国の復興努力を継続的に支援してきました。この努力は、現地の被災者の復興の即効薬にはならないかもしれません。しかし、そのような大災害の際には小さな親切の一つ一つが役に立つのです。この地域の主な特産品が日本で調味料の原料や食品として用いられている柔らかい海草であるワカメです。この産品の販売から得られる利益の全てが被災者に寄付されます。私は、福島の被災者を支援する方法を探るために、西日本区の全ての部を訪れてクラブ例会に出席しました。

クラブ例会の1つで

地元当局を支援する

ケララ州の役所を訪れる人達の苦労に配慮して、エッマンノール・ワイズメンズクラブは、コッタヤム事務所（区税務官の勤務地）に車椅子を寄贈しました。これは、救済や支援を求めて陳情に訪れる多くの病人や高齢者の利便性に配慮した事業です。この車椅子は、2015 年末に区税務官ホセ氏の事務所で本人が受け取りました。

2015年アジア賞

飯島羨稔

松本ワイズメンズクラブ（東日本区あずさ部）は、2015年12月に第17回アジア賞授賞式を開催しました。1999年に松本クラブが始めたアジア賞は、自費で日本で学んでいるアジア人留学生に自らを高め、自分達の夢を実現するよう奨励することを目的としています。この賞は、日本語で書かれた優れたエッセイに与えられます。出場者のエッセイの内容は、外国人としての日本での生活、文化の相違、国際理解の重要性など、バラエティーに富んでいました。彼ら全員が帰国後は、日本で学んだ知識と経験を最大限に活かすことを楽しみにしていました。

第17回「アジア賞」の受賞者

援助の手を差し伸べる

パトリシア・リム

シンガポール・ワイズメンズクラブ・アルファーチャプターの最初の配布活動は、2015年12月21日にサラ高齢者活動センターとの共同で実施されました。このクリスマスの季節に我々は、ブキット・メラ・エステートに入所している高齢者に心ばかりの贈り物をしています。

我々は、その地域で生活している高齢者の健康管理とモニタリングをしているサラ高齢者活動センターと直接関わりを持たない高齢者にも援助の手を差し伸べています。様々な仕事を持つ15名のボランティアと協力して、贈り物を袋詰めするために朝早く集合しました。この作業は、とても簡単そうに思えましたが、実はそうでもありませんでした。ボランティアの方々は、家を戸別訪問して高齢者の方々と接して言葉を交わしましたが、このことは高齢者とボランティアの双方にとって有意義なものでした。

戸別訪問

トロント・メガソン（大規模イベント）

マーチン・ダンド

中央カナダ区とオタワ・ワイサービスクラブは、フェアトレード（公正取引）サッカーボールをノース・ヨーク（トロント）YMCAメガソンに寄付しました。メガソンは、トロント周辺にある複数のYMCAの為の資金集め行事です。サッカーボールは、2016年3月5日（土）にノース・ヨークで開催された資金集めバスケットボール大会の賞品の1つでした。

この写真右端が元国際本部ユース・インターン・ドミニク・フェルナンデス・トレレス、中央が元エリア会長・国際広報事業主任マーチン・ダンド、その他がYMCA職員とノース・ヨーク・ワイズメンズクラブのメンバーです。

台北へようこそ

国際大会実行委員会（ICHC）

2016年国際大会が2016年8月4日～7日に台北で開催されます。大会本会場は、かの有名な円山大飯店です。2日目の夜は、近くにある万博ドームに会場を移します。61年前に台湾でワイズ運動が誕生して以来、国際大会をホストするのは、初めての経験です。台北は、多文化・多民族からなる都市で、その友好的な市民は、伝統文化を重視しながら進歩的でモダンな環境の中で自然や周りの世界と完全に調和して働いています。

私達、国際大会実行委員会は、ユニークで楽しいプログラムの立案のために賢明に努力しています。2016年国際大会に参加されれば、永遠に忘れがたい記憶として心に刻まれることでしょう。

登録受付は始まっていますので、ネットもしくはファックスで申し込みができます。登録費は、4月30日までは、早期登録割引料金1人450米ドルです。詳細は、http:ic2016org. のホーム・ページをご覧下さい。

是非、魅力溢れる台湾を訪問し、友好的なワイズメン家族との交流をお楽しみ下さい。間違いなく千載一遇の好機となるでしょう。

インドの「緑の父」

インドの砂漠緑化運動に人生と資産を捧げた日本人ワイズマン

西日本区理事　遠藤通寛・東日本区理事　渡辺　隆

日本のワイズメンの多くが杉山龍丸のインドにおける活動について彼を特集した最近のテレビ番組で知ることになりました。後になって彼が福岡中央ワイズメンズクラブの会員であり、若い頃からYMCAとワイズ運動に関わっていた事を知ったのは嬉しい喜びでした。杉山ワイズは1919年福岡の名家に生を受けました。現在も彼については、外国はおろか日本でもほとんど知られていませんが、彼の業績については、母国である日本から遠く離れたインドで後々までの語り草となっています。

杉山ワイズの祖父は、政治家であり実業家でした。また父は有名な作家でしたが、龍丸が16歳の年に相次いで父と祖父をなくしました。祖父は、彼に「アジアの人々を救いなさい」という言葉を残しましたが、その言葉が彼の将来を変えたようです。龍丸の祖父の事業の1つが、アジア各国からやって来た若者のための農業教育でした。そのために37ヘクタール（4万6千坪）の農地を購入しました。第二次世界大戦が終わると、龍丸は農業技術を修得するためにインドからの学生受け入れ事業を再開しました。

龍丸とインドとの関わりが、1962年にインドのジャワハルラールネール首相の電話へとつながりました。首相は、当時、砂漠化による飢餓と貧困で疲弊していたインドを救ってほしいと依頼したのです。龍丸は、インドに到着して、砂漠化した広大な土地を目の当たりにしました。土地を調査した後で、彼はこれらの土地に欠かせない緑を復活させることができるユーカリを植林する決断を下しました。彼は、成長が早く深く根を張るユーカリが地下水を地表に吸い上げ、農業を可能にすると考えたのです。最初、農民達は龍丸を手助けすることには消極的でした。彼らは今を生きるのに精一杯だったのです。しかし、彼の決意と彼自身の手で木を植えているのを見て、農民達は彼の手助けをしはじめました。プロジェクト終了時にはインドとパキスタンを結ぶ470キロの国道に沿って26万本のユーカリを植えました。

龍丸の次のプロジェクトは、頻繁に土砂崩れに見舞われていたシュワリック・レンジ（山脈）に緑を取り戻すことでした。急速に砂漠化する3,000キロに及ぶ地域にユーカリを植樹するには、膨大な資金が必要でした。あいにくこのプロジェクト開始時は、長引く旱魃の時期と重なっていたので、インド政府は、この事業の資金を調達することができませんでした。龍丸は、国連に支援を要請しましたが、彼自身の権限を越える理由から援助を受けることはできませんでした。最後の手段として、彼は福岡の37ヘクタールの農地を含む全ての資産を売り払って、現在の価値で約1億4千万米ドルの資金を調達しました。

脳卒中と過労が原因で1987年に68歳で他界した時には、このプロジェクトはまだ完成していませんでした。しかしながら、プロジェクトは、地元の人々に引き継がれました。植樹は続けられ、現在、かつての乾燥した荒地は、鬱蒼とした緑と豊かな農地に変貌しています。

現地の人々は、「ジャワルハルラー・ネールは、建国の父であり、杉山龍丸は、緑の父である。」と言っています。龍丸の息子である満丸が、「私達は、もう福岡に農園を持っていませんが、それは今もインドで緑の木々として残っている。」と語ったと報道されています。

龍丸の業績は、インドに永遠の遺産を残しただけでなく、日本の同胞のワイズメンを鼓舞してくれました。福岡中央ワイズメンズクラブの会員である坂元毅ワイズは、現在モンゴルの砂漠の緑地化に活発に取り組んでいます。龍丸は、「不可能と思わなければ、すべて可能だ」と語ることによって、多くの人達が不可能だと考えた事業に乗り出したのです。彼の不断の努力と献身と決意は、世界の異なる状況の中で様々な課題に直面している同胞のワイズメンにとってまたとない励みとなることでしょう。

故郷から遠く離れて:ヒマラヤ山脈の植樹の為に何マイルも歩き続けることもあった途方もない長丁場の作業の合間にインドの友人達と共に日付のない映像写真に写る杉山ワイズ

白いカラス

平和の学校は、異なるアジア諸国、異なる宗教、異なる文化を代表する約20人の若者を集めて、通常年に1度アジアで開催されます。この14週間のプログラムは、参加者が自国に帰って地域社会の変革に取り組めるように自己変革を触発することを目的としています。

14週間が終わると、参加者は、プログラム期間中に何を学んだか、自分がどのように変わったかを発表するよう求められます。参加者の1人が、彼の感想の1つとして以下の話を語ってくれました。

山岳地帯と海の間にある平地に小さな村がありました。村人は、農民で自分達の家族のための食料を得るために一生懸命働いていました。その村は、ゴミ捨て場で残飯を漁っている多くのカラスの住処でもありました。カラスは、どれも黒色で村人は、カラスは例外なく黒いということを普遍の真理として受け止めていました。この件に関して村人は、疑問を抱いたことも、気にかけたこともありませんでした。

ある日、1人の見知らぬ男が村にやってきました。彼は、さすらい人で各地をさまよいながら、聞きたい人に自分の体験談を語っていました。村人は、いつも語り部を歓迎していたので、この見知らぬ男がどんな素晴らしい話をしてくれるのか聞こうと夕方になって集まりました。

「友人のみなさん。」と彼は、語り始めました。「この村には、たくさんの黒いカラスがいますね。黒いカラスしか見当たりません。でも白いカラスもいることを皆さんは、知っていましたか?」

村人は、大笑いしてその見知らぬ男が冗談を言っているのだと思いました。しかし、村人が、その男の顔を見たとき、彼は真顔でした。

村人は一声に「白いカラスなんていないよ。」と言いました。「カラスは黒いに決まってる。この村のカラスを見てご覧なさい。どれも黒いでしょ。カラスは、黒いもので白いなんでありえない。」

「でも私は、白いカラスを見たことがあるのです。」と彼は真剣な顔をして言いました。「白いカラスはいるのです。」

夜が更けても、村人は、彼が見たという白いカラスについて質問を浴びせました。彼は非常に詳細かつ誠実に答えたので、やがて村人は、彼の話を信じ始めました。

「でも、私達は白いカラスを1度も見たことがありません。黒いカラスしか見たことがないのです。」

「そうでしたら、白いカラスを探しに出かけなければなりませんね。」とその語り部は微笑みながら言いました。「意識して見ようとしなければ、決して白いカラスは見つかりません。「捜し求める者だけが、感嘆し、楽しむことのできる新たな真実を見つけることができるのです。探求者だけが、より大きな世界を発見することができるのです。」

このような感想を述べた参加者は、平和の学校にやって来るまでは、自分は探求者ではなかったと話を締めくくりました。

彼は、自分が知っている事と、経験したことだけが、世界を理解するのに役立つ十分な真実であると当然のように受け止めていたのです。彼は、まだ白いカラスを見つけてはいませんが、現在は自分の育った地域社会と世界全体が直面している様々な問題を新たな視点から見つめ直す為に、外の世界にでかけて、白いカラスを探す意欲をかき立てられています。彼は、より広い世界を発見する意欲に燃えていました。この若者が母国に帰国して以来、私は彼の進路を見守っています。彼は、実際に自らの思い込みを捨てて、新たな真実を捜し求めています。地域社会の隅に追いやられた人たちと共に生活し、彼らの苦悩、挫折と成功の話に耳を傾けることで、彼には新たな発見がありました。それは、人々が貧しく、飢えたりホームレスになっている理由について、彼が最初に考えていた理由では、今彼が見聞きしている状況を説明することができないと悟ったのです。

我々の生活する世界をより良く理解する為には、先ず現在の我々の理解には限界があることを認める必要があります。たとえ黒いカラスしか見たことがなくても、白いカラスがいないことにはなりません。マスコミがイスラム教は、過激な宗教であると報道しても、真実は全く異なっているかもしれないので、我々は真剣に検討しなければなりません。

我々は、時間をかけて医療、銃規制、結婚生活の平等、貧困、福祉などに関しては、時間をかけて詳しい情報を入手しなくてはなりません。耳コミ情報が疑いのない真実でないことを発見するかもしれませんし、自分とは異なる視点を持つ人の考えに耳を傾けることで、自分の元々の理解が真実を説明するには、十分ではないと認識するかもしれません。

旧約聖書箴言第3章13-14節は、知恵を得て深い知識を得るためには努力が必要であることを示唆しています。「知恵を求めて得る人、悟りを得る人はさいわいである。知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、その利益は精金よりも良いからである。」

確かに、白いカラスはいるのです。私は1羽見たことがあります。私は、探求者であり続けるでしょう。なぜなら、私が理解できないことや、神様の素晴らしい創造に関して誤解していることが多くあると確信しているからです。

マックス・エディガーは、オクラホマ州パンハンドルの小さな農場で育ちました。19歳の時、アフリカ、ベトナム、タイで奉仕活動を行っている国際的なNGOで働き始めました。彼の仕事を通じて難民、地域の貧民街、貧しい農村部、戦争の被害者と個人的に接することになりました。正義と人権のために懸命に努力しているこれらの人々や地域社会は、彼の執筆活動に大きな影響を与えました。その執筆活動を通じて懸命に努力している人々の希望と勇気を読者に伝いたいと考えたのです。彼は現在カンボジアで生まれた平和の学校の運営を任されています。また数カ国のYMCAでリソース・パーソンを務めています。
www.mennolink.org/peace平和・正義支援ネットワーク・合衆国メノナイト教会ネット出版のピース・サインズの許可を得て転載

ワイズメンズクラブ国際協会は男女から構成されている活発な団体で地域社会に奉仕しています
しかも私達は、そうすることを心から楽しんでいるのです!

奉仕団体である我々ワイズメンズクラブは、あなたとあなたの家族 1 人1人に友愛という喜びと、共通の価値観と理想に加えて、あなたが住んでいる地域社会をより良い生活の場にするという満足感を提供できるとお約束します。

あなたのエリアにあるワイズメンズクラブは、世界の全ての大陸にある 70 以上の国と地域の地域共同体をより良い場所にする為に YMCA と協働して取り組んでいる世界的な組織の一員であり、国際的な触れ合いとプロジェクトを実践する機会を提供しています。

我々の組織は、多種多様な資質を持った会員によって支えられており、その1人1人が全世界のために貢献しています。

今こそ、あなたが参加して成長する好機なのです

個人レベルで
- ·あなたの社会的スキル、組織的スキル、コミュニケーションスキルをさらに向上させる。
- ·所属するクラブのプロジェクトや活動にあなたのスキルを使って貢献する。
- ·個人的な理想と信念を実践に移す。
- ·ワイズメンズクラブ国際協会の会員との親交を深める。

地域社会レベルで
- ·地域の若者のために人材と資源を提供する。
- ·その他の奉仕クラブや地域奉仕団体と連絡を取って、互いに支援する支持基盤を提供する。
- ·YMCA のプログラムの立案と実施の支援をおこなう。

国際レベルで
- ·他者について学び、分かち合う事を通して、国際理解と平和のために努力する。
- ·学生が外国を訪問したり、会員の家庭にホームステイしながら勉強できるように支援する。
- ·国際的プロジェクトのために募金活動に参加する。
- ·「全人類のより良き世界を築く」ためにリーダーシップを奨励し、向上させる。

私達の仲間に加わってください

詳細に関しては
www.ysmen.org をご覧下さい。

ワイズメンズワールド
2015/16年度　第3号
発行者:ワイズメンズクラブ国際協会
西日本区理事　遠藤通寛(大阪泉北)
東日本区理事　渡辺　隆(甲府)
国際編集長　Koshy Mathew
日本語翻訳・編集責任者　谷本秀康(東広島)
日本語版翻訳者　倉田正昭(京都)、谷川　寛(大阪センテニアル)、青木一芳(千葉)、後藤邦夫(東京まちだ)、今城高之(横浜つづき)、田中博之(東京多摩みなみ)
印　刷　(株)三浦印刷所